

みやぎ経済月報

(2005年9月)

平成17年9月22日

目次

本県の経済概況	1
主な指標の動き	3
鉱工業生産指数	7月 3
大口電力使用量	7月 3
新設住宅着工戸数	7月 4
公共工事請負金額	8月 4
大型小売店販売額	7月 5
乗用車新車登録台数	7月 5
消費者物価指数	8月 6
求人倍率	7月 6
所定外労働時間	7月 7
実質賃金指数	7月 7
企業倒産	8月 7
宮城県景気動向指数(概要)	8
全国・東北等の景況	9
主要経済指標	12
宮城の経済動向 平成17年第2四半期 (4月～6月期)	28

利用される方に

この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によるもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

統計表の符号は次のとおりです。

- 「 」 …… 負数
- 「…」 …… 数字が得られないもの
- 「-」 …… 該当数字がないもの
- 「p」 …… 速報値または暫定値

みやぎ経済月報は毎月最終月曜日頃に公表しています。

内容についてのご照会、ご意見は、
宮城県企画部統計課(分析所得班)
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022-211-2453(直通)
にご連絡下さい。

本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

宮城県統計課ホームページ

<http://www.pref.miyagi.jp/toukei/>



日本に住むすべての人が
対象になります

みなさん、ご協力をお願いします



国勢調査

平成17年10月1日(土)

本県の経済概況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇒ は変化方向)

7月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種では高水準の生産が続いているが、全体の基調としては横ばい傾向が続いている。住宅投資は貸家、分譲住宅に動きがみられるものの、持家は低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は低調に推移しているが、一部で足もとに動きがみられる。企業倒産は、件数、負債総額ともに減少となった。雇用は緩やかながらも改善の動きが続いている。

このように、景気は依然として、緩やかな持ち直しの動きに鈍化傾向がみられ、一服感を解消させる動きはうかがわれない。



[前月の概況]

6月を中心とした宮城県経済の動向をみると、生産は、特定業種では高水準の生産が続いているが、全体の基調としては横ばい傾向が続いている。住宅投資は貸家、分譲住宅に動きがみられるものの、持家は低調に推移している。公共投資は低調である。個人消費は低調に推移しているが、一部で足もとに動きがみられる。企業倒産は、件数は減少し小康状態となったが、負債総額は大型倒産の影響を受け高水準となった。雇用は緩やかながらも改善の動きが続いている。

このように、景気は依然として一服感がみられるなかで、緩やかな持ち直しの動きに鈍化傾向がみられる。

⇒ は月の変化方向。



生産
 鉱工業生産指数(7月)は、前年同月比が2か月ぶりに減少となった。前月比は、3か月ぶりに上昇となった。大口電力使用量(7月)は、前年同月比が3か月ぶりに減少となった。



住宅投資
 新設住宅着工戸数(7月)は、前年同月比が貸家で6か月連続の増加、分譲住宅は3か月連続の増加となった。持家は5か月連続の減少となった。

全体では2か月連続の増加となった。



公共投資
 公共工事請負金額(8月)は、前年同月比が国は2か月ぶりに減少となった。県は9か月連続の減少、市町村は3か月連続の減少となった。全体では2か月ぶりに減少となった。



大型小売店
 大型小売店販売額(7月、百貨店・スーパーの販売額の合計。既存店比較)は、前年同月比が17か月連続の減少となった。百貨店は前年同月比が6か月ぶりに増加、スーパーは前年同月比が34か月連続の減少となった。

自動車



乗用車新車登録および届出台数(7月・普通、小型、軽自動車の合計)は、前年同月比が4か月ぶりに減少となった。前年同月比は小型車が4か月連続の増加、軽自動車も4か月連続の増加となった。普通車は2か月連続の減少となった。

物価



仙台市消費者物価指数(8月)は、生鮮食品を除く総合指数は、前年同月比が3か月連続の下落となった。総合指数は、前年同月比が3か月連続の下落となった。

雇用



求人倍率(7月)は、有効は3か月ぶりに低下となった。新規は2か月連続の低下となった。所定外労働時間(製造業・30人以上)(7月)は、前年同月比が減少となった。実質賃金指数(同)(7月)は、上昇となった。

企業倒産



企業倒産(8月)は、件数は前年同月比が2か月連続の減少となった。負債総額は前年同月比が2か月ぶりに減少となった。

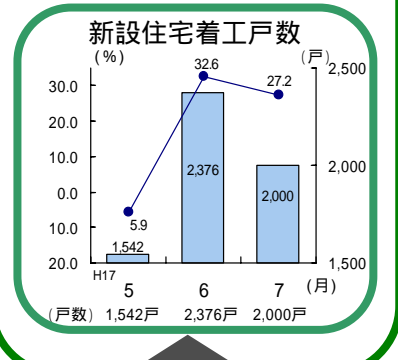
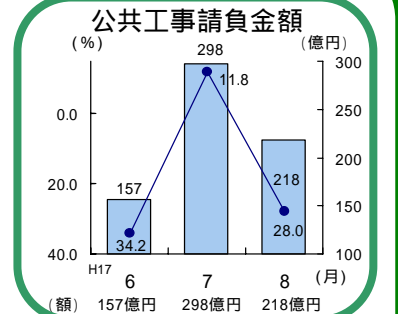
大型倒産(負債総額10億円以上)は1件発生し、4か月連続の発生となった。

直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

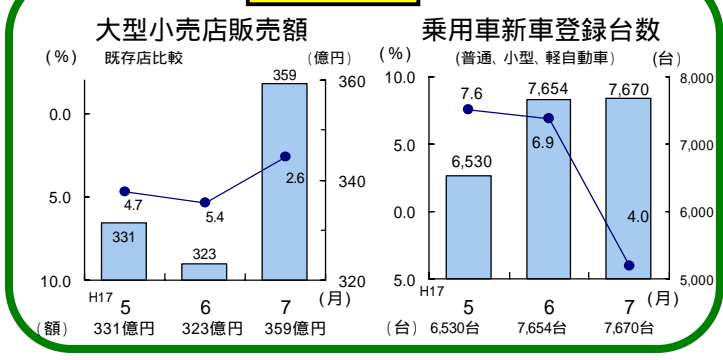
については、前月差

■ は実数値(左目盛)
●● は前年同月比の推移(右目盛)

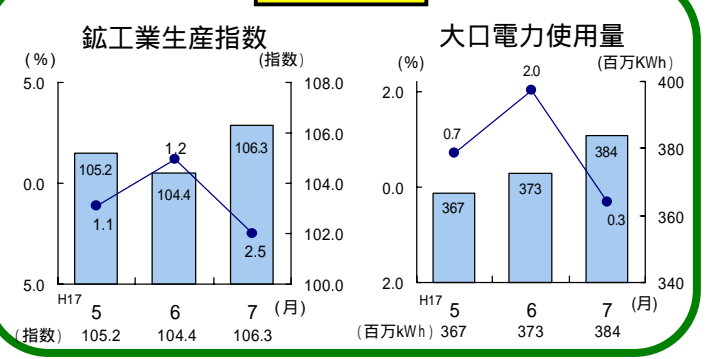
投資



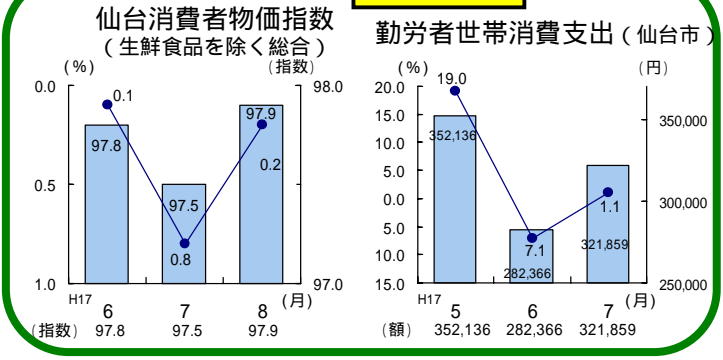
消費



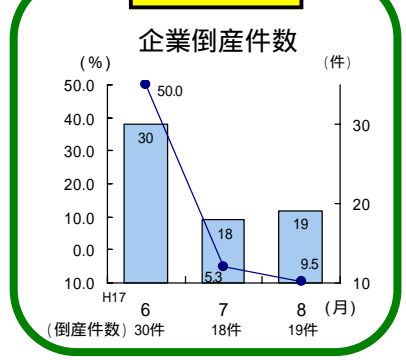
生産



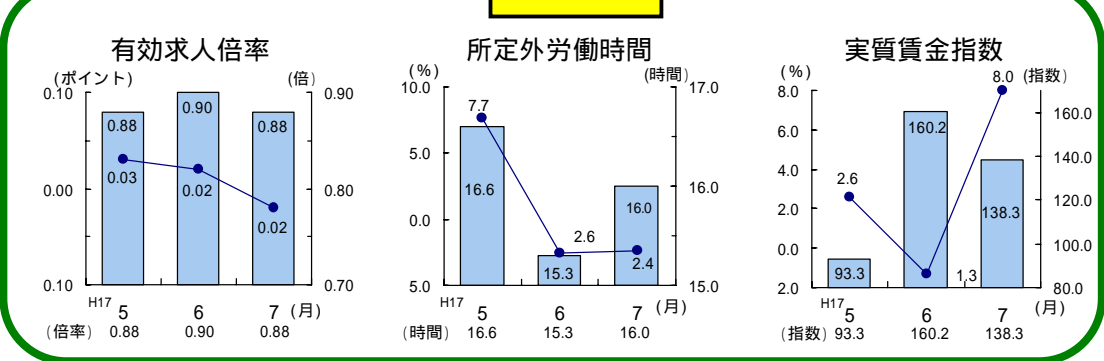
家計



企業倒産



雇用



主な指標の動き

1 生産

(1) 鉱工業生産指数

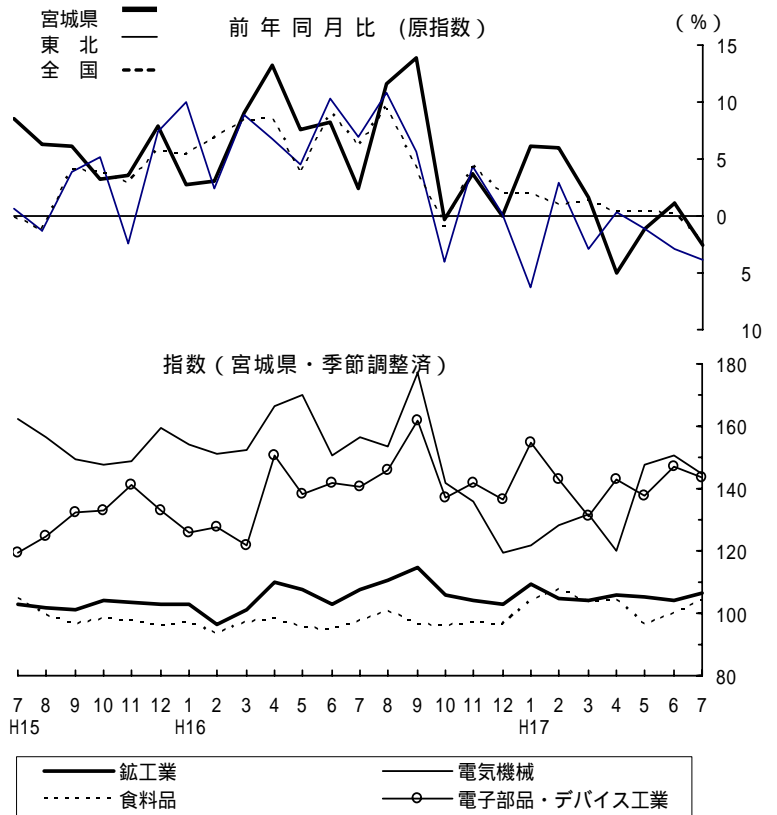
7月の鉱工業生産指数(季節調整値、平成12年=100)は106.3(速報値)で、前年同月比(原指数比較)2.5%の低下となり、2か月ぶりに低下となった。

業種別の前年同月比をみると、食料品工業、輸送機械工業、一般機械工業、など9業種が上昇となった。

一方で、精密機械工業、情報通信機械工業、電気機械工業など10業種が低下となった。

なお、前月比は1.8%の上昇となり、3か月ぶりに上昇となった。

(資料：県統計課)

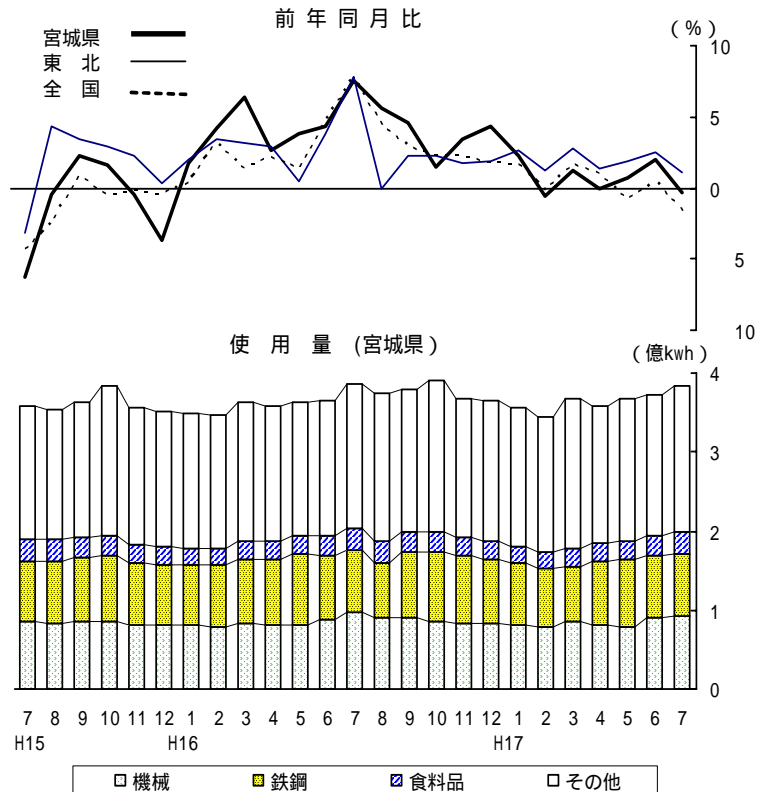


(2) 大口電力使用量

7月の大口電力使用量(契約電力500kw以上)は3億8,387万kWhで、前年同月比0.3%の減少となり、3か月ぶりに減少となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると、食料品分野は1.5%の減少となり、9か月ぶりに減少となった。機械分野は3.8%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。鉄鋼分野は0.9%の減少となり、6か月連続の減少となった。

(資料：東北電力(株))



2 投 資

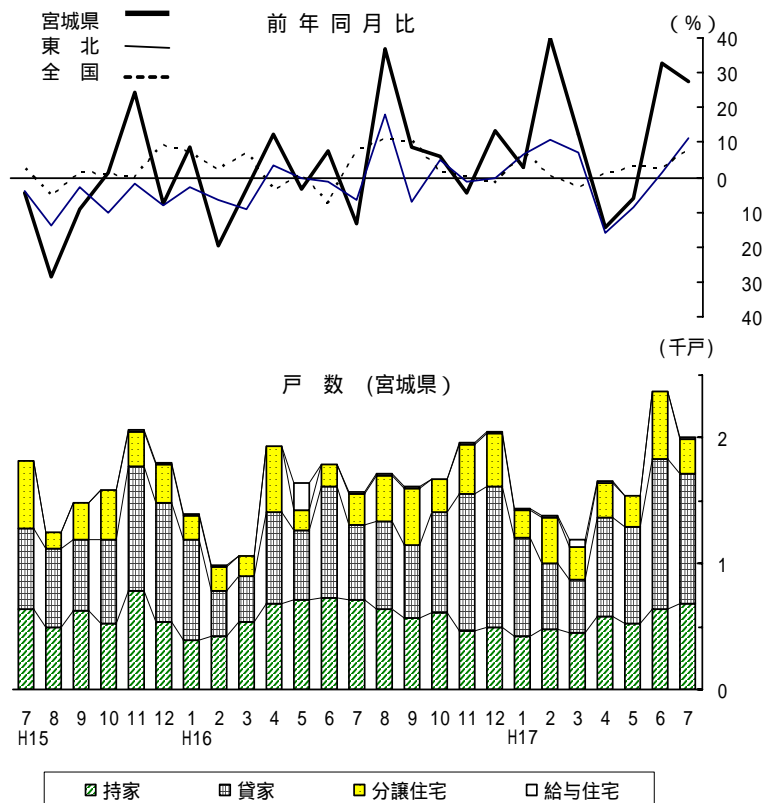
(1) 新設住宅着工戸数

7月の新設住宅着工戸数は2,000戸で、前年同月比27.2%の大幅な増加となり、2か月連続の増加となった。

利用関係別に前年同月比をみると、貸家は71.5%の大幅な増加となり、6か月連続の増加となった。分譲住宅は11.8%の増加となり、3か月連続の増加となった。

一方で、持家は3.0%の減少となり、5か月連続の減少となった。

(資料：国土交通省)

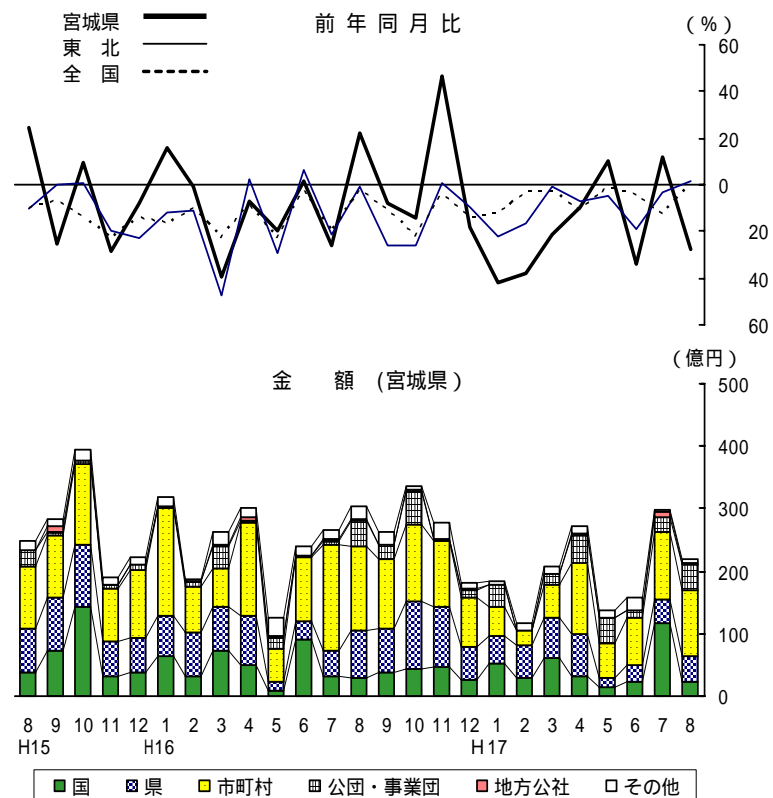


(2) 公共工事請負金額

8月の公共工事請負金額は218億3,400万円で、前年同月比28.0%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。

発注主体別に前年同月比をみると、国は22.6%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。県は44.6%の減少となり、9か月連続の減少となった。市町村は21.7%の減少となり、3か月連続の減少となった。

(資料：東日本建設業保証(株))



3 消 費

(1) 大型小売店販売額

7月の大型小売店販売額（百貨店・スーパーの売上総額）は359億3,600万円で、前年同月比（既存店比較）2.6%の減少となり、17か月連続の減少となった。

業態別に前年同月比（同）をみると、百貨店が0.4%の増加となり、6か月ぶりに増加となった。スーパーは4.2%の減少となり、34か月連続の減少となった。スーパーの全店舗比較では0.2%の増加となり、3か月連続の増加となった。

品目別に前年同月比（既存店比較）をみると、飲食料品が13か月連続、衣料品が12か月連続、身回り品が6か月連続で、それぞれ減少となった。百貨店の衣料品は16か月ぶりに増加となった。

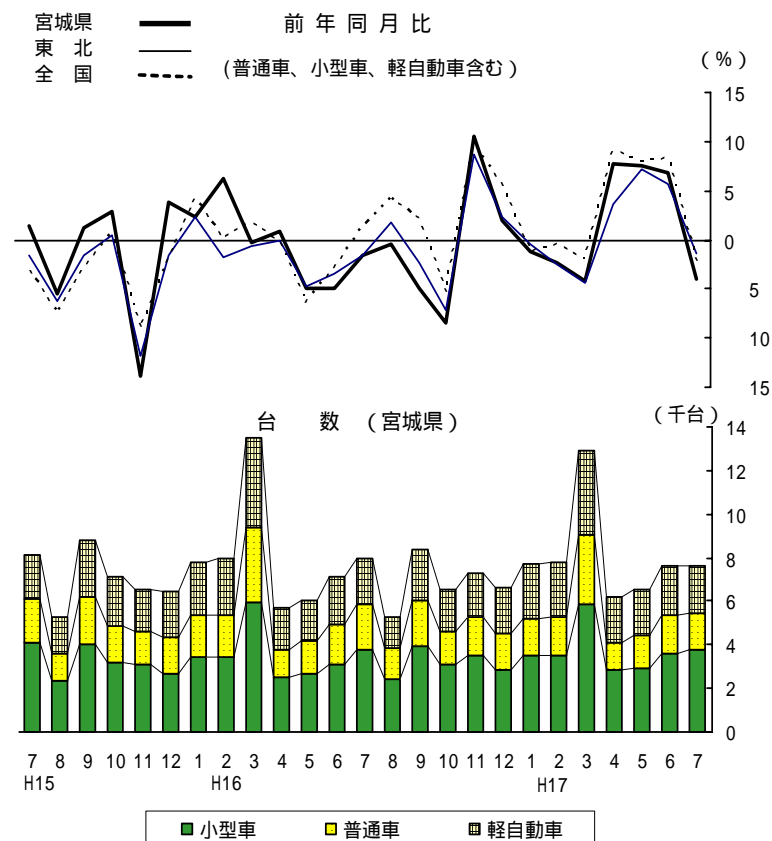
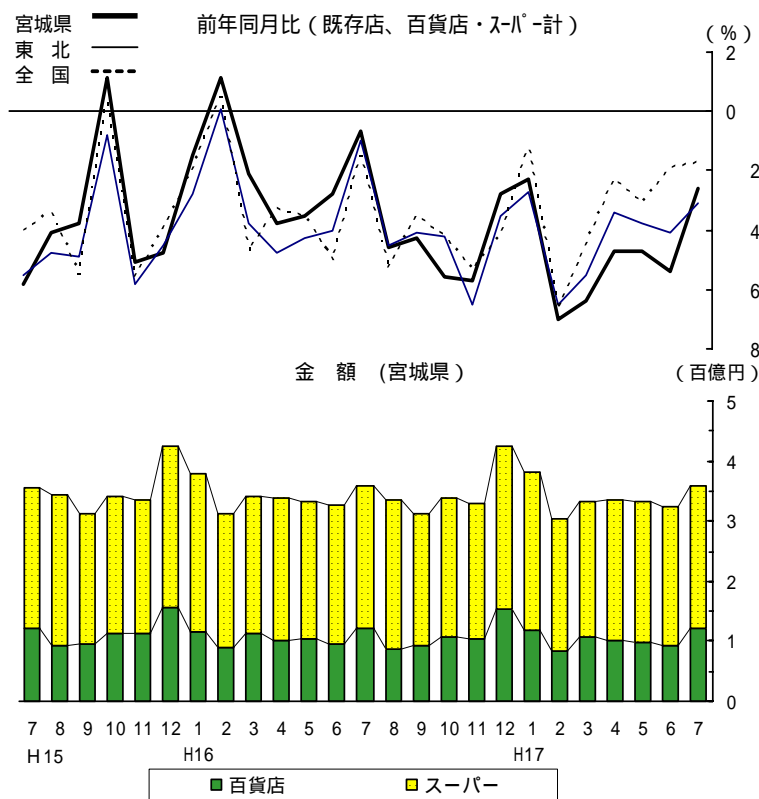
（資料：東北経済産業局）

(2) 乗用車新車登録台数

7月の乗用車新車登録及び届出台数（普通乗用車、小型乗用車、軽乗用自動車の合計）は7,670台で、前年同月比4.0%の減少となり、4か月ぶりに減少となった。

車種別に前年同月比をみると、普通車（排気量2,000cc超）は18.5%の減少となり、2か月連続の減少となった。小型車（排気量2,000cc以下）は0.3%の増加となり、4か月連続、軽自動車は2.6%の増加となり、4か月連続の増加となった。

（資料：自動車販売協会連合会宮城県支部、全国軽自動車連合会）



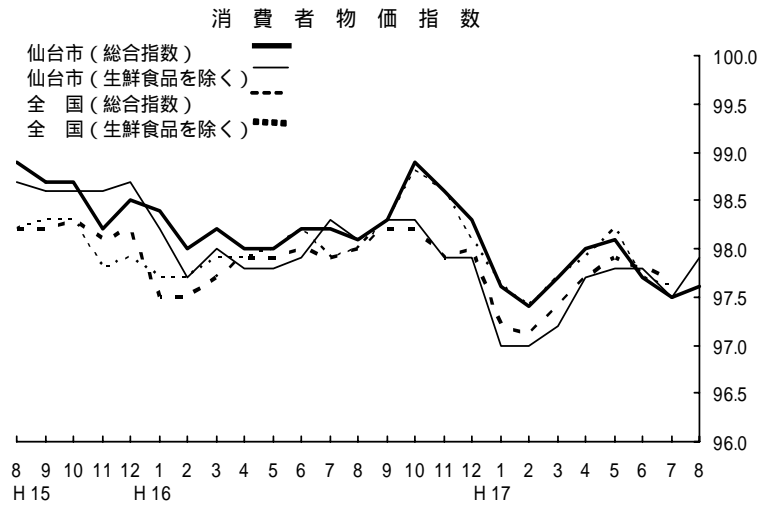
4 物 価

8月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成12年=100、中旬速報値)は97.9で、前年同月比0.2%の下落となり、3か月連続の下落となった。また、前月比は0.4%の上昇となり、2か月ぶりに上昇となった。

総合指数(同)は97.6で、前年同月比0.5%の下落となり、3か月連続の下落となった。また、前月比は0.1%の上昇となり、3か月ぶりに上昇となった。

10大費目別に前年同月比をみると、光熱・水道などが上昇し、食料、家具・家事用品、教育娯楽などが下落した。

(資料:県統計課)



5 雇 用

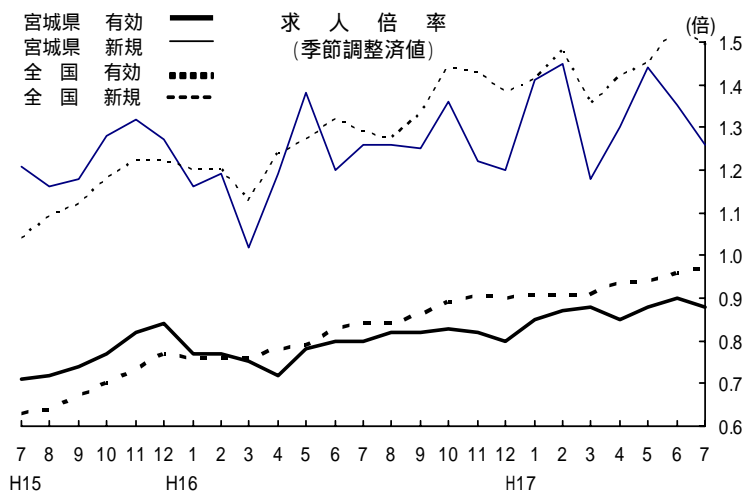
(1) 求人倍率

7月の有効求人倍率(求人数/求職者数、季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は0.88倍で、前月を0.02ポイント下回り、3か月ぶりに低下となった。新規求人倍率(同)は1.26倍で、前月を0.09ポイント下回り、2か月連続の低下となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効が前年同月比9.2%の増加となり、15か月連続の増加となった。新規は前年同月比2.2%の減少となり、7か月ぶりに減少となった。

産業別の新規求人数(一般)では建設業は7か月連続の増加となった。製造業は4か月ぶり、サービス業は2か月ぶり、全体では9か月ぶりにそれぞれ減少となった。

(資料:宮城労働局)

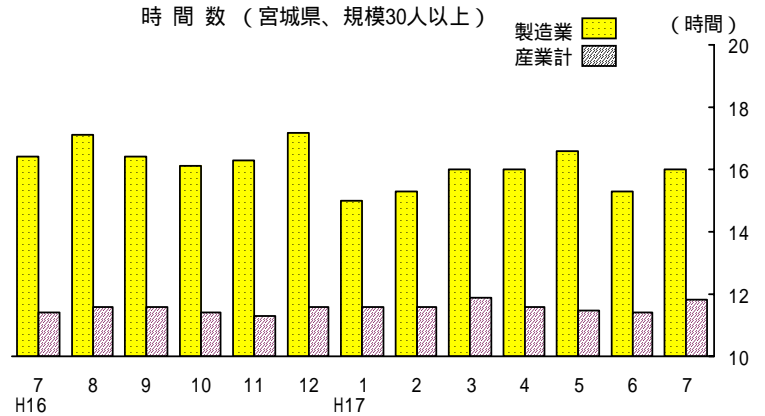


(2) 所定外労働時間

7月の所定外労働時間（製造業、事業所規模30人以上、1人平均月間）は16.0時間で、前年同月比2.4%の減少となった。

調査産業全体（事業所規模30人以上、1人平均月間）では所定外労働時間は11.8時間で、前年同月比3.5%の増加となった。

（資料：県統計課）

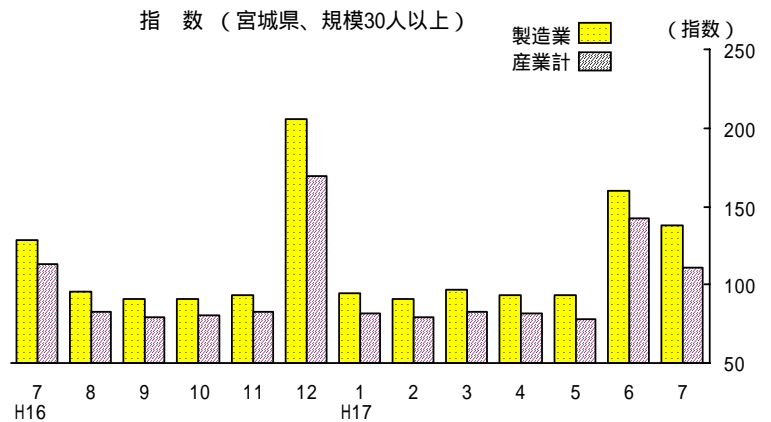


(3) 実質賃金指数

7月の実質賃金指数（平成12年=100、現金給与総額、製造業、事業所規模30人以上）は138.3で、前年同月比8.0%の上昇となった。

調査産業全体では110.8で、前年同月比2.1%の低下となった。

（資料：県統計課）

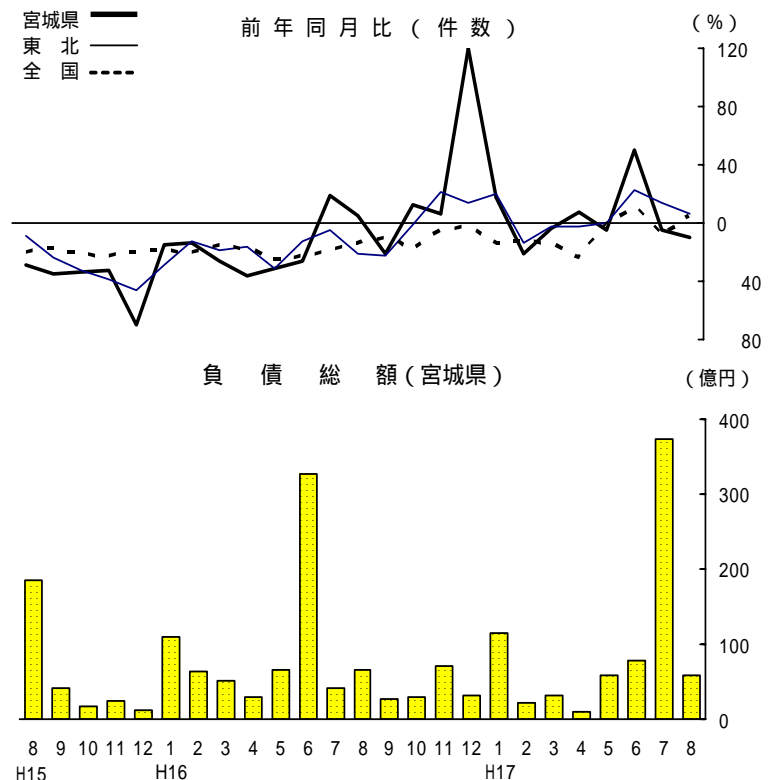


6 企業倒産

8月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は19件で前年同月比9.5%の減少となり、2か月連続の減少となった。負債総額は58億4,200万円で、前年同月比10.7%の減少となり、2か月ぶりに減少となった。大型倒産（負債総額10億円以上）は1件発生し、4か月連続の発生となった。負債総額は38億円となった。

このうち、不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、赤字累積）は17件で、構成比は89.5%となり高水準で推移している。

（資料：㈱東京商工リサーチ）



宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

7月の景気動向指数は、先行指数61.1%、一致指数25.0%、遅行指数60.0%となった。
 先行指数は5か月連続で50%を上回った。一致指数は6月に50%になった後、50%を下回った。遅行指数は2か月振りに50%を上回った。

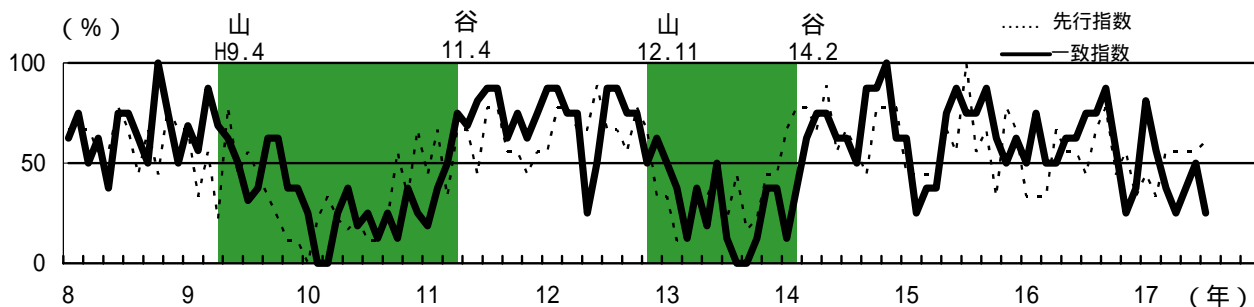
2 景気動向指数変化方向表

系列名		平成16年				17年							
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
先行系列	1 新規求人数	+	-	+	-	+	-	+	-	-	+	+	1
	2 所定外労働時間指数(製造業)	-	-	-	-	+	+	+	+	+	-	-	2
	3 生産財生産指数	+	-	-	-	+	-	-	-	-	+	+	3
	4 自動車新規登録台数	+	-	+	+	+	-	-	+	+	+	-	4
	5 新設住宅着工床面積	+	+	-	-	-	-	-	-	-	+	+	5
	6 建築着工床面積	-	+	+	+	-	-	+	+	+	+	+	6
	7 企業倒産件数	+	-	+	-	-	+	+	+	-	-	-	7
	8 全銀貸出残高	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	+	8
	9 中小企業業界景況感	+	+	-	-	-	-	-	+	+	-	0	9
	拡張系列数	7.0	4.0	5.0	3.0	4.0	3.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.5	
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9		
先行指数(DI)		77.8	44.4	55.6	33.3	44.4	33.3	55.6	55.6	55.6	55.6	61.1	
一致系列	1 雇用保険受給者実人員	+	+	+	+	+	+	-	-	+	-	-	1
	2 有効求人倍率	+	0	+	+	+	0	-	-	-	+	+	2
	3 人件費比率(製造業)	+	-	-	-	0	-	-	-	-	+	-	3
	4 鉱工業生産指数	+	-	-	-	+	-	+	-	-	+	-	4
	5 投資財生産指数	+	+	-	+	+	-	-	+	+	-	-	5
	6 大口電力使用量	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-	-	6
	7 大型小売店販売額	-	-	-	-	+	+	+	-	-	-	+	7
	8 輸入通関実績	+	+	-	-	-	+	-	+	-	+	-	8
	拡張系列数	7.0	4.5	2.0	3.0	6.5	4.5	3.0	2.0	3.0	4.0	2.0	
	採用系列数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
一致指数(DI)		87.5	56.3	25.0	37.5	81.3	56.3	37.5	25.0	37.5	50.0	25.0	
遅行系列	1 常用雇用指数(製造業)	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	1
	2 消費者物価指数(仙台市)	+	+	+	+	-	-	-	+	+	-	-	2
	3 勤労者世帯消費支出(〃)	+	+	-	-	+	+	+	-	+	-	+	3
	4 営業倉庫保管残高	+	+	+	+	+	-	+	+	-	-	-	4
	5 法人事業税収入	-	+	+	+	-	+	+	+	-	-	+	5
	拡張系列数	4.0	4.0	3.0	3.0	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0	1.0	3.0	
採用系列数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		
遅行指数(DI)		80.0	80.0	60.0	60.0	60.0	60.0	80.0	80.0	60.0	20.0	60.0	

(注) 1 季は季節調整済(センサス局法 - 11)。前は前年同月比。逆は逆サイクル。

2 各系列の変化方向は、3か月前との比較による。

3 景気動向指数グラフ



全国・東北等の景況

(下線部は前月からの主要変化部分。⇨は変化方向)

1 全国の景況

月例経済報告(内閣府)   9月22日 [<http://www.cao.go.jp/>]

景気は、企業部門と家計部門がともに改善し、緩やかに回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出は持ち直し、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

8/9 景気は、企業部門と家計部門がともに改善し、緩やかに回復している。

- ・企業収益は改善し、設備投資は緩やかに増加している。
- ・個人消費は、緩やかに増加している。
- ・雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- ・輸出は持ち直し、生産は横ばいとなっている。

先行きについては、企業部門の好調さが持続する中で、家計部門も改善しており、世界経済の着実な回復に伴って、景気回復は底堅く推移すると見込まれる。一方、情報化関連分野で見られる在庫調整の動きや原油価格の動向等には留意する必要がある。

金融経済月報(日本銀行)   9月9日 [<http://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、回復を続けている。

輸出は緩やかながらも増加しており、生産も、振れを伴いつつ増加傾向にある。設備投資は、高水準の企業収益を背景として、引き続き増加している。雇用者所得も、雇用と賃金の改善を反映して、緩やかな増加を続けており、そのもとで個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移しており、公共投資は基調としては減少傾向にある。



先行きについても、景気は回復を続けていくとみられる。

8/10 わが国の景気は、IT関連分野における調整が進むもとの、回復を続けている。

輸出は緩やかながらも増加しており、生産も、IT関連分野の在庫調整が進むもとの、振れを伴いつつ増加傾向にある。設備投資は、高水準の企業収益を背景として、増加を続けている。また雇用面の改善や賃金の持ち直しから、雇用者所得は緩やかに増加しており、そのもとで個人消費は底堅く推移している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移しており、公共投資は基調としては減少傾向にある。

先行きについても、景気は回復を続けていくとみられる。

2 東北の景況

東北経済産業局管内の経済動向(東北経済産業局)   9月14日 [<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

- ・鉱工業生産は、横ばい傾向で推移しているものの、一部に回復の動きが見られる。
- ・個人消費は、全体として弱含んでいる。
- ・住宅着工戸数は、下げ止まりの動きから再び低調となっている。
- ・公共投資は、一部に動きが見られるものの、全体としては低調な動きとなっている。
- ・設備投資は、製造業を中心に積極的な投資の動きが見られる。
- ・雇用は、地域差はあるものの、緩やかな改善の動きが見られる。

・企業倒産は、件数、負債総額ともにこのところ増加している。

管内の景気動向は、住宅着工、公共投資は低調、個人消費も全体として弱含んでいる。一方、鉱工業生産は横ばい傾向で推移しているものの一部に回復の動き、設備投資は製造業を中心に積極的な投資の動き、雇用にも改善の動きがみられる。

このように、全体としては横ばいのなかで一部に改善の動きもみられている。

8/15 管内の景気動向は、住宅着工、公共投資は低調、個人消費も全体として弱含んでいる。一方、鉱工業生産は横ばい傾向で推移しているものの一部に回復の動き、設備投資は製造業を中心に積極的な投資の動き、雇用にも改善の動きがみられる。

このように、全体としては横ばいのなかで一部に改善の動きがみられている。

管内の金融経済概況（日本銀行仙台支店）



9月2日 [<http://www3.boj.or.jp/sendai/index.html>]

管内（宮城、岩手、山形）経済は、依然として横這い圏内を脱するまでには至っていない。

すなわち、最終需要動向をみると、個人消費は、雇用・所得環境の改善が鈍い中、業態・品目のばらつきがみられ、一進一退の域を脱していない。住宅投資は横這い圏内にある一方、公共投資は減少傾向にある。

この間、生産動向をみると、自動車関連や紙・パ、食料品の一部などで高操業が続いているが、IT関連分野については、浮揚感に乏しいながらも横ばい圏内の動きに止まっている。

7/29 管内経済は、一部に改善の動きがみられるが、横ばい圏内を脱するまでには至っていない。すなわち、最終需要をみると、個人消費は、雇用・所得の改善が全国比見劣りする中、業態・品目のばらつきを伴いつつ、全体としては一進一退の動きを続けている。住宅投資は横這い圏内にある一方、公共投資は減少傾向にある。

この間、生産動向をみると、自動車関連や紙・パなどで高操業が続いている中で、IT関連材も在庫調整は進展しており、回復に向けた基盤が整いつつある。

3 宮城の景況

県内景気の動き（七十七銀行）



9月21日 [<http://www.77bank.co.jp>]

7月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、一部に上向きの動きがみられるものの、依然として足踏み状態となっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では引続き弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に上向きの動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。住宅投資は一部に増加の動きがみられるが、公共投資は引続き低調に推移している。また、雇用情勢は足元やや一服感がうかがわれるが、持ち直しの動きとなっている。

8/22 6月を中心とした県内景況をみると、全体として景気は、一部に上向きの動きがみられるものの、依然として足踏み状態となっている。生産面では、鉱工業生産がなお高水準を維持しているが、足元では引続き弱めの動きとなっている。一方、需要面では、個人消費が一部に上向きの動きがみられるが、総じて一進一退の動きとなっている。住宅投資は一部に増加の動きがみられるが、公共投資は引続き低調に推移している。

また、雇用情勢は、持ち直しの動きがみられる。

この間、企業の景況感は改善しているが、業況については、製造業では持ち直しの動きがみられる一方、非製造業では悪化に歯止めがかからない状況となっている。